

社会調査データへのDOI登録事例

ジャパンリンクセンター 「対話・共創の場」(第8回)
対話・共創の場 (2021/12/23)

胡中孟徳 (konaka@iss.u-tokyo.ac.jp)

東京大学社会科学研究所

附属社会調査・データアーカイブ研究センター

<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/>

- Social Science Japan Data Archive (SSJデータ・アーカイブ) の概要紹介
 - ・ 社会調査データアーカイブの独自性
 - ・ コンテンツ紹介：社会調査データ
- DOI登録について
 - ・ 経緯
 - ・ 登録体制
 - ・ 意義・効果
 - ・ 課題・要望

SSJデータアーカイブの概要

東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

Center for Social Research and Data Archives
Institute of Social Science, The University of Tokyo



コンテンツ紹介

社会調査データ

- 社会科学分野の質問紙調査によるデータ。
 - 社会科学分野でポピュラーな統計解析アプリケーションであるSPSSデータファイルとテキストファイルの二種類のフォーマットで公開
 - ※インタビューデータなどは含まない。

コンテンツの公開先（ランディングページ）

SSJDA Directシステム（2009年4月～）

<https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct>

利用者による検索、利用手続き、管理者側の作業を一元化

SSJDA Direct
Social Science Japan Data Archive

東京大学社会科学研究所
附属社会科学・データアーカイブ研究センター

English

データ検索

概要全文:
寄託者名:
トピック (詳細はこちら):
指定なし

調査名:
調査年:
調査対象の単位 (詳細はこちら):
指定なし

教育目的利用
指定なし

表示順
[調査番号(昇順)]

検索 内容をクリア

* 調査名をクリックすると、データの概要が表示されます

<< < 1 2 3 4 5 6 7 >>> 全1499件

調査番号	調査名	寄託者 (寄託者名)	トピック	Nesstar
0001	新機学卒者 (中卒) 労働市場調査, 1953	東京大学社会科学研究所	雇用・労働	---
0002	中小企業における賃金決定の実態に関する調査, 1995	連合総合生活開発研究所	雇用・労働	---
0003	若年労働者のキャリアと学習型に関する調査, 1995	連合総合生活開発研究所	教育・学習 雇用・労働	---
0004	小学生・中学生の生活に関するアンケート調査, 1995	連合総合生活開発研究所	社会・文化 教育・学習	---
0005	ボランティア活動についてのアンケート調査, 1995	連合総合生活開発研究所	社会・文化 安全・犯罪・災害	---
0006	勤続5年以上の女性労働者のキャリア形成と人権意識の運用実態に関する調査, 1995	連合総合生活開発研究所	雇用・労働	---
0007	退職金制度に関する調査, 1995	連合総合生活開発研究所	雇用・労働	---
0010	日本人の生活満足度調査, 1985	生命保険文化センター	社会・文化	---
0011	日本人の生活満足度調査, 1991	生命保険文化センター	社会・文化	---
0012	日本人の生活満足度調査, 1996	生命保険文化センター	社会・文化	---
0013	生命保険に関する全国調査, 1976	生命保険文化センター	社会保障・福祉	---
0014	生命保険に関する全国調査, 1979	生命保険文化センター	社会保障・福祉	---

概要	
調査番号	0001
調査名	新機学卒者 (中卒) 労働市場調査, 1953
寄託者	東京大学社会科学研究所
利用申込み・承認手続き	利用方法の詳細はこちら
教育目的(授業など)の利用	研究のみ
利用期限	一年間
データ提供方法	ダウンロード
メタデータ情報・オンライン分析システム Nesstar	利用不可
調査の概要	新制中学校卒業生と日本の産業の現在および将来がいかにかわり合うかという問題を、「一國の資本の蓄積」と「方向」、産業と学校・技能教育の関係、社会階層の特殊な生活水準と生活慣習、とくに農民層の分析、「家事労働の職業労働化」、「未就業失業問題と低賃金産業問題」=「産業予備軍の存在形態」の諸観点から分析し、産業別・地域別労働市場の類型化をおこなう。 調査の経緯は次のとおりである。神奈川県中卒(男子)労働力の市場は、3階層・5地域——A. 最上層=「金沢をおおう京浜地区労働市場」、B. 第2階層=「横浜地区」、「湘南鎌倉市を中心とする中部地区」、小田原市を中心とする「西部地区」、C. 最下層=高屋・栗平・津久井郡にまたがる「農村地区」——からなる構造をもち、労働移動は、各地域市場間では主として3階層間で——C→A, B→Aという「連環型」と、C→B→Aという「連鎖型」の2型をとって——おこなわれる。こうした「労働移動の契機」になるのは、賃金に集中的に表れる労働条件の相対的格差であって、その背景に、地域別の産業構造、企業規模別構造の相違がある。女子中卒者の労働市場は、「地域的対抗性」が大きく、京浜地区労働市場も全県をおおうものになっていない点で男子のそれと異なる。また、いずれの地域でも女子の初任給は男子より低く、地域別格差は男子より大きく、分散もまた大きい。
データタイプ (量的調査/質的調査/官庁統計)	量的調査
調査対象	量的調査: ミクロデータ
調査対象の単位	個人
サンプルサイズ	「調査対象」参照
調査時点	1953-07-01 ~ 1953-07-01 1953/07/01
対象時期	1953 ~ 1953
調査地域	神奈川県 神奈川県
基本抽出	

SSJデータアーカイブの概要

業務内容

社会科学研究所で保存していたデータをはじめ、民間の調査研究機関や大学等の研究者が実施した**社会調査の個票データを収集し、独自に整理した上で、二次的な学術的研究のために提供を行う**

1998

東京大学社会科学研究所に設置し、附属施設として設立された日本社会研究情報センターの活動。個票データの貸出の開始。

2009

社会調査・データアーカイブ研究センターと改組。SSJDA Directの稼働開始

2010

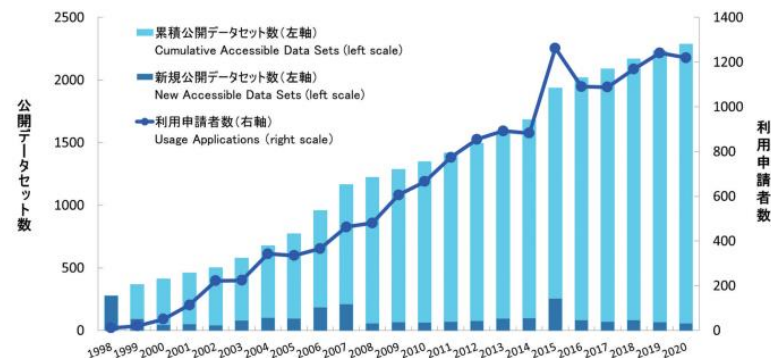
文部科学省より社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点として認定。2016年に認定が更新。

2014

メタデータ閲覧・オンライン分析システムであるNesstarの稼働開始。

2018

日本学術振興会より「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラム」の拠点機関として認定。



SSJデータアーカイブの概要：役割と意義

収集

- 研究機関や研究者が実施した社会調査データを集める

保管

- 集めたデータを適した形式で保管する

提供

- 二次的な利用を希望する研究者にデータを提供する

- 大規模な労力をもちいて収集した社会調査データの喪失を防ぎ、保存
- **二次分析** | 多くの質問を含む社会調査データは、異なる観点からの分析が可能
- 大学での教育に利用
- 今後実施される社会調査の質の維持・向上

SSJデータアーカイブの特色：他領域との違い

二次分析を中心とした運営

- 当初から、個票データを提供して二次分析が行われることを前提
- 二次分析の普及のための活動
 - 日本の人文社会科学分野ではデータ公開への積極的姿勢が弱く、普及のための活動を行ってきた。
 - 寄託者表彰、二次分析の成果物を把握することで優秀論文表彰
 - 計量分析セミナーでの教育活動（CSRDAの計量社会研究分野）

データの提供（利用）は制限付き：適切な利用がなされるよう利用条件を定めている

- 大学または研究機関の研究者および大学院生が学術目的での利用
- 一部データは、大学の授業・ゼミや卒論執筆のため、指導教員のもとで学部学生も利用可能（教育目的）

DOI登録を開始するまで

2017

DOI登録方法の検討

- 所内・学内で
の情報収集

2018

- 海外アーカイブとの連携に
よる登録

人文学・社会科学データインフラストラ
クチャー構築プログラムの拠点機関
2018/9～

2019

JaLCに問い合わせ・
申し込み手続き
2019/11～2020/6

2020

DOI登録の開始
2020/8～

DOI登録体制

データインフラストラクチャー構築プログラムによるデータカタログ JDCatへの連携データにDOI登録を進めている

- 2020年8月から163件登録（2021年12月20日時点）

JDCatに連携するデータの準備ができ次第、DOI登録を行うフロー

- SSJDA DirectのメタデータをJDCatのスキーマに整理
- 英語メタデータ

の準備ができたものをJDCatに連携している

DOI登録作業時には、必須項目のみ手入力で行っている

DOI登録の意義・効果

信頼できる国際リポジトリへの一歩

- 海外の社会調査データアーカイブは、軒並みDOI登録を行っている
- 現在SSJDAは、Core Trust Sealの取得に向けた準備をすすめており、書類の中で「データの永続性」などを記入する必要があった

JDCatとの連携および、将来的にはそれを介した国際連携

- SSJDA DirectにはOAI-PMHは実装しているため、直接の連携も可能

今後の課題・JaLCに対する要望

DOI取得作業の定常業務化

- ・ 現在は、過去に公開してきたデータに対してDOIを付与する作業が中心で、新規のデータ公開プロセスとは独立して作業を実施している
- ・ 今後、新規データ公開プロセスのなかでDOI付与を実施していくことを検討

DOIの活用可能性の検討

- ・ 成果物に付記・謝辞を記載する際に、DOIを含める形式とする、など

JaLCに対する要望

- ・ SSJDA DirectメタデータはDublin Coreに対応しているので、メタデータ入力に、OAI-PMHを活用できると便利。